

地域が丸となつて 感染予防対策に取り組もう

野村訪問看護ステーションでは、新型コロナが感染拡大した当初から、地域全体で感染予防に取り組んできました。ケアマネ向けにも事務所の環境整備や利用者との面接など、テーマや場面ごとに動画を配信、注意喚起してきました。今号の特別企画では、現所長の石橋さんと前所長の家崎さんに、今までのコロナ禍での取り組みを報告、今後の対策の注意点を教えていただきます。

状況を見ていち早く動き 訪問看護師が事業所を先導

医療法人財団慈生会野村病院に併設されている野村訪問看護ステーション（以下、ST）は、東京都三鷹市を中心にサービスを提供しています。2000年には三鷹市からの委託を受け、地域の総合相談窓口として在宅介護支援センターを開設、2006年からは地域包括支援センターとして事業を展開しています。地域の病院、関係機関との連携に力を入れ、地域包括ケアを推進しています。

2020年1月にクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号の乗客からCOVID-19の陽性者が出て以後、COVID-19はものすごいスピードで私たちの生活を一変させました。マスクや防護具の不足、感染に不安を感じる利用者のサービス控え、介護サービス事業者の感染等々これまで体験したことのない事態が次々と起こってきました。

当STでは、未知のウイルスに怖さを

感じながらも、2020年3月には「この未知のウイルスと戦うために何が必要か」、「今までの私たちの消毒の方法で大丈夫?」、「訪問の方法は大丈夫?」、「防護着はちゃんと着ることはできる?」などのCOVID-19対策の話し合いを始めました。その頃から、地域のヘルパーやケアマネジャーたちからは不安の声が聞かれるようになり、また、あふれる情報に振り回されている様子が伺えました。「熱がある利用者宅には訪問はしない」という介護事業所なども出始め、適切なケアが継続できない状況も出てきました。

そこで、当STでは「訪問看護師が先導して正しい知識と感染拡大防止対策を伝えていかなくてはいけない」と考え、4月には、介護職に向けた環境消毒や事業所内の感染防止についての動画を作成し視聴者を限定してYouTubeで配信しました。さらに動画をDVDに書き込み、三鷹市内の各事業所にそのDVDを郵送したりもしました。

また、コロナ禍での発熱は、「新型コ



執筆 ▶

石橋佳代子 ● 医療法人財団慈生会野村訪問看護ステーション 所長、
看護師、訪問看護認定看護師、ケアマネジャー

いしばしかよこ

1996年、国立大蔵病院看護助産学校 看護婦科卒、同年、国立小児病院入職、1999年、医療法人社団 吉祥寺あさひ病院入職、2011年、医療法人財団慈生会野村訪問看護ステーション入職、2018年、訪問看護認定看護師取得、2019年、独立行政法人大学改革支援学位授与機構 看護学士取得。

家崎 芳恵 ● 医療法人財団慈生会野村訪問看護ステーション 前所長、
看護師、認定看護管理者、ケアマネジャー